

園長のひとり言

6月のひとり言 ～「言葉は心のあらわれ」～

梅雨の季節を迎えました。私たち大人は「うっとうしいなあ」という思いが頭を過りますが、子ども達の顔には微塵も見られません。雨の日でも水たまりがあれば、その中に入って「バシャッバシャ」と楽しんでいます。子ども達はどんな環境でも楽しむ能力があります。

雨の中でも楽しんで遊んでいる時、子ども達の心が楽しい時、言葉ははずんでいます。でも、子ども達の心が悲しい時、言葉はつかえています。そして子ども達の心が怒った時、言葉は突き刺さります。

かとうみちこさんの「ことばのかたち」という詩を紹介します。

うれしいとき ことばはまるい
ピンポンみたいに はずんでいる

かなしいとき ことばはしかくい
ヒックヒックと つかえてしまう

おこったとき ことばはさんかく
ブスブスッと つきささる

ことばに はげまされ
ことばに いましめられ
ことばに ほろぼされる

かたちのない ことばだけれど
たしかにふれる
こころにふれる

言葉には形はないけれど、確かに形のように私たちの心に触れます。言葉は今の自分の「こころ」をあらわしています。

大人の私たちも自分の言葉に目を向けて見ませんか。